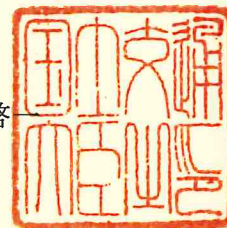


# 認定書

国住指第 173 号  
令和元年 6 月 5 日

株式会社 アイ・テック  
代表取締役社長 大畑 大輔 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP120FL-0188
2. 認定をした構造方法等の名称  
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・連続支持）

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	仕様
床厚	165以上
支持間隔	3600以下（自重を含めた総荷重 15.15 kN/m <sup>2</sup> 以下）
支持	連続支持

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項目	仕様
① デッキプレート	<ul style="list-style-type: none"><li>規格 JIS G 3352(デッキプレート)</li><li>山高さ 75<sub>±1.5</sub></li><li>形状寸法 別添-6 参照</li><li>厚さ 1.2<sub>-0.06,+0.1</sub>, 1.6<sub>-0.08,+0.1</sub></li><li>働き幅 300<sub>-2,+8</sub>, 600<sub>-2,+8</sub></li><li>種類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)SDP1T (2)SDP1TG (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3</li></ul>
② コンクリート	<ul style="list-style-type: none"><li>種類 普通コンクリート</li><li>呼び強度 21～45</li><li>厚さ デッキプレート山上から 90 以上</li></ul>
③ 耐火補強筋	鉄筋(異形鉄筋) <ul style="list-style-type: none"><li>規格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li><li>種類 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490, SDR295, SDR345</li><li>断面寸法 D13 以上</li><li>間隔 300(デッキプレート溝部中央)</li><li>かぶり厚さ デッキプレート溝部底面から 40</li></ul>

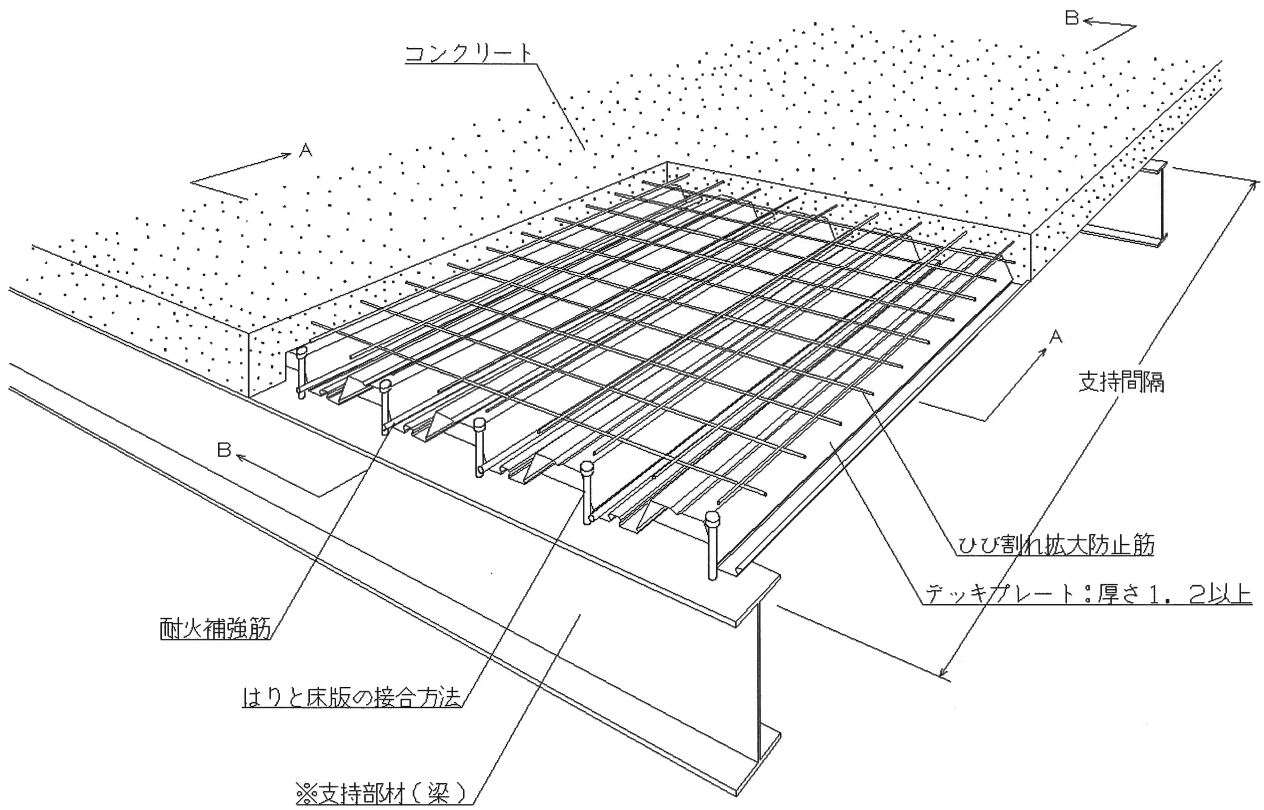
項 目	仕 様
4 ひび割れ拡大防止筋	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・規 格 JIS G 3551</li><li>・種 類 (イ)～(ニ)のうち、いずれか一仕様とする<ul style="list-style-type: none"><li>(イ)WFP</li><li>(ロ)WFC</li><li>(ハ)WFR</li><li>(ニ)WFI</li></ul></li><li>・線 径 <math>\phi 6</math> 以上</li><li>・間 隔 100×100 以下</li><li>・かぶり厚さ 床上面から 30</li></ul> <p>(2)鉄筋(異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117</li><li>・断 面 寸 法 D10 以上</li><li>・間 隔 200×200 以下</li><li>・かぶり厚さ 床上面から 30</li></ul>

## 2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①スパーサー	<p>[1]耐火補強筋用</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> <p>(2)セメントブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> <p>[2]ひび割れ拡大防止筋用</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul> <p>(2)セメントブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上</li> <li>・間 隔 1000 以下</li> </ul>
②はりと床版の 接合方法	<p>[1]デッキプレート端部梁</p> <p>頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS B 1198</li> <li>・寸 法 <math>\phi 16</math> 以上<math>\times</math>L110 以上</li> <li>・間 隔 300 以下</li> </ul> <p>[2]デッキプレート中間梁</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS B 1198</li> <li>・寸 法 <math>\phi 16</math> 以上<math>\times</math>L110 以上</li> <li>・間 隔 300 以下</li> </ul> <p>(2)焼抜き栓溶接（中間梁のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寸 法 溶接径<math>\phi 18</math> 以上</li> <li>・間 隔 300 以下</li> </ul>
③はりとデッキプレート の接合方法	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)アークスポット溶接</p> <p>(2)すみ肉溶接</p>

#### 4. 構造説明図

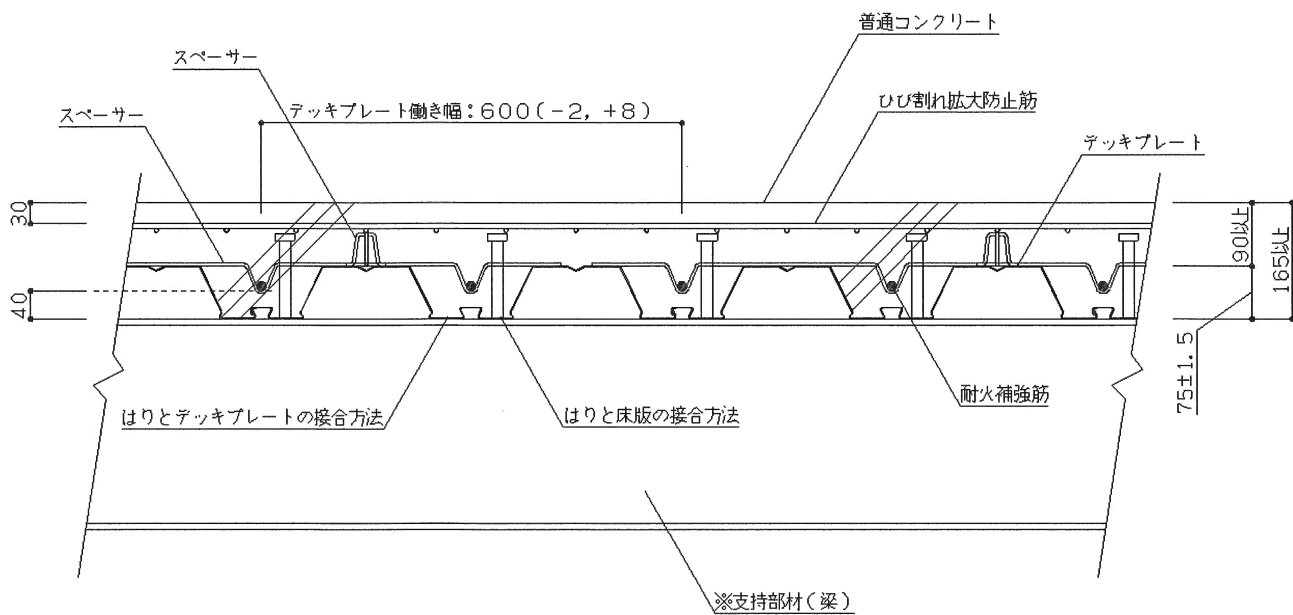


※支持部材(梁)には, 必要に応じ耐火被覆を施す。

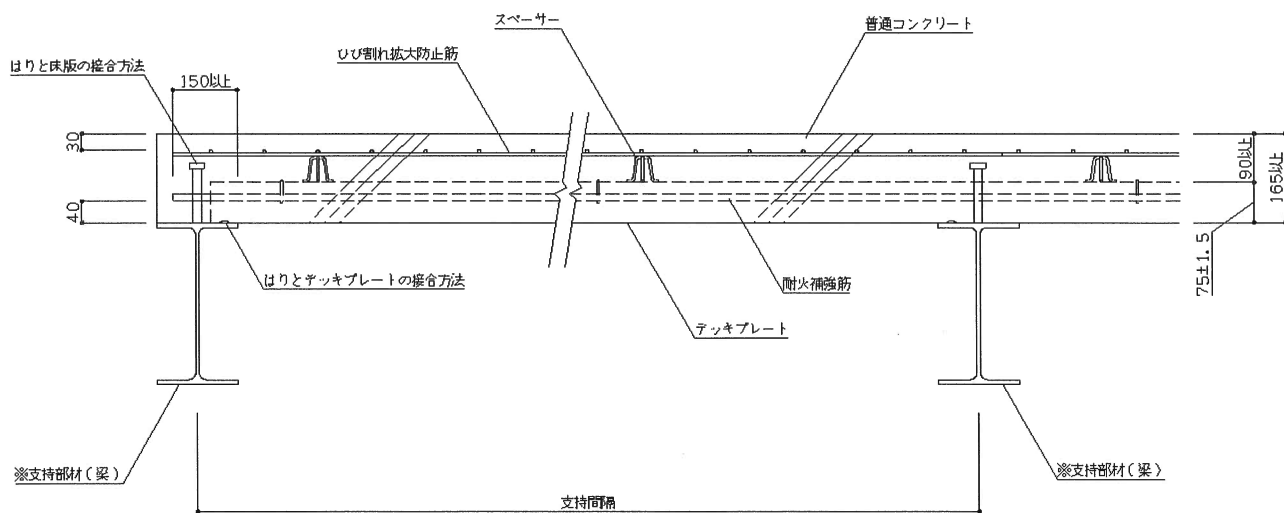
透視図: 連続支持

図1 構造説明図(1)

(寸法単位：mm)



A-A 断面図



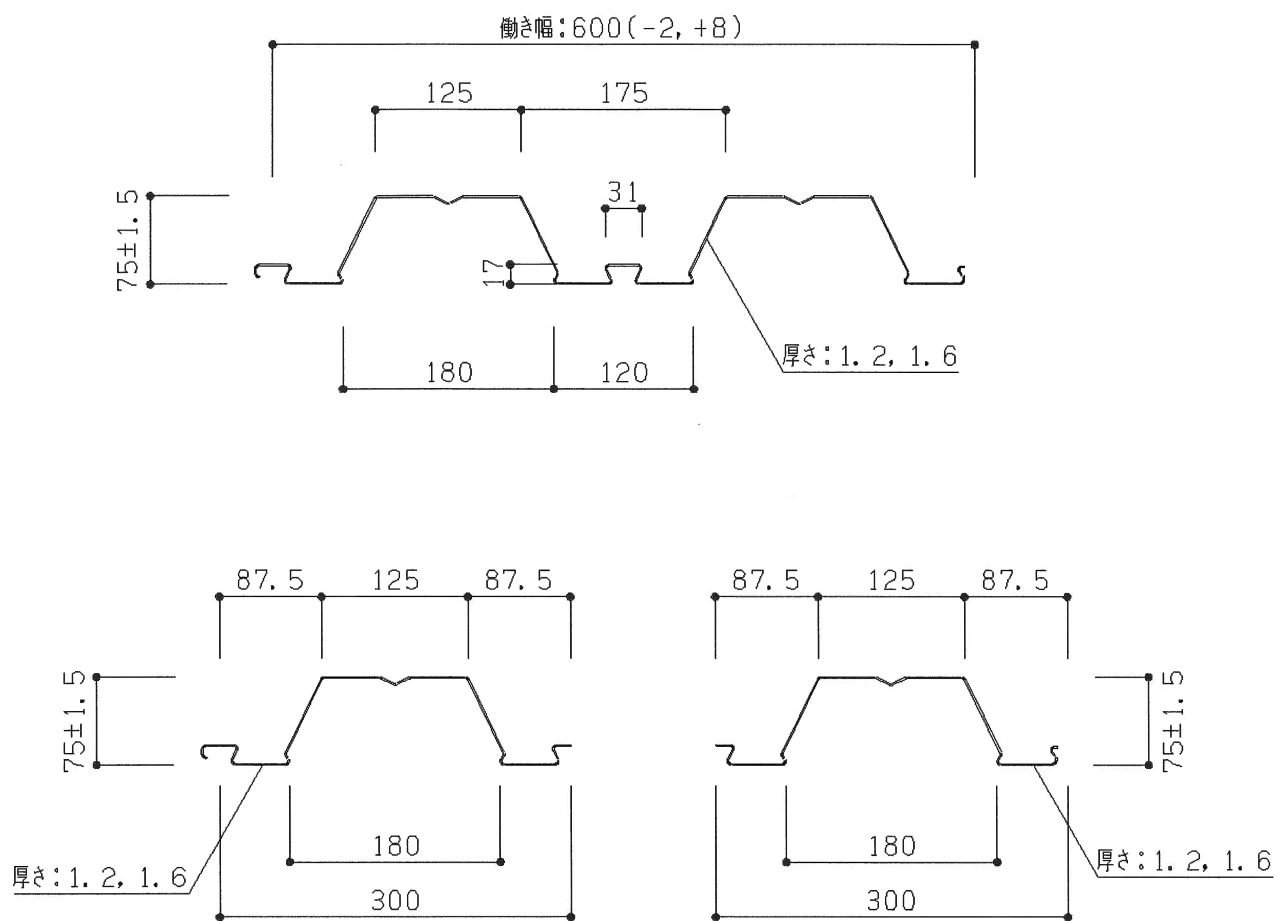
B-B 断面図

図2 構造説明図(2)

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

(寸法単位：mm)



デッキプレート断面図

図3 構造説明図(3)

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

## 5. 施工方法等

### <施工図>

#### 4. 構造説明図と同じ

### <施工手順>

#### 1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置し、デッキプレートを梁に溶接等（各溝に一箇所）で仮止めする。

#### 2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブ（床）と鉄骨梁とは、頭付きスタッドで結合する。但し、中間梁については焼抜き栓溶接としても良い。

頭付きスタッドの施工前に、デッキプレートと梁を隅肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。接合方法は、平成14年国土交通省告示第326号の規定及び「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

#### 3) 鉄筋（耐火補強筋）の設置

スペーサー等を用いて梁上から40mmの位置に耐火補強筋（D13以上）を各溝に設置する。スペーサーの材料は、変形等しない線径以上の鉄線またはセメントモルタルブロックを用い、間隔は1.0m以下とする。配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じるものとする。但し、構造評定や性能証明を取得した工法等による場合はそれらの仕様による。

#### 4) 鉄筋（ひび割れ拡大防止筋）の設置

コンクリートのひび割れ拡大防止の為、溶接金網または異形鉄筋を設置する。スラブ上面から30mmのかぶり厚さとなるように、スペーサー等を使用して設置する。スペーサーの材料は、変形等しない線径以上の鉄線またはセメントモルタルブロックを用い、間隔は1.0m以下とする。

配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じるものとする。但し、構造評定や性能証明を取得した工法等による場合はそれらの仕様による。

#### 5) コンクリート打設

鉄筋（ひび割れ拡大防止筋）が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準拠する。

#### 6) 仕上げ

コンクリートの表面を金ゴテ等を用いて仕上げを施す。

#### 7) 養生

施工後の養生は、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準拠する。



# アイ・テック Sデッキ：2時間耐火仕様 (高荷重耐火補強筋)

認定番号:FP120FL-0188(連続支持合成スラブ)

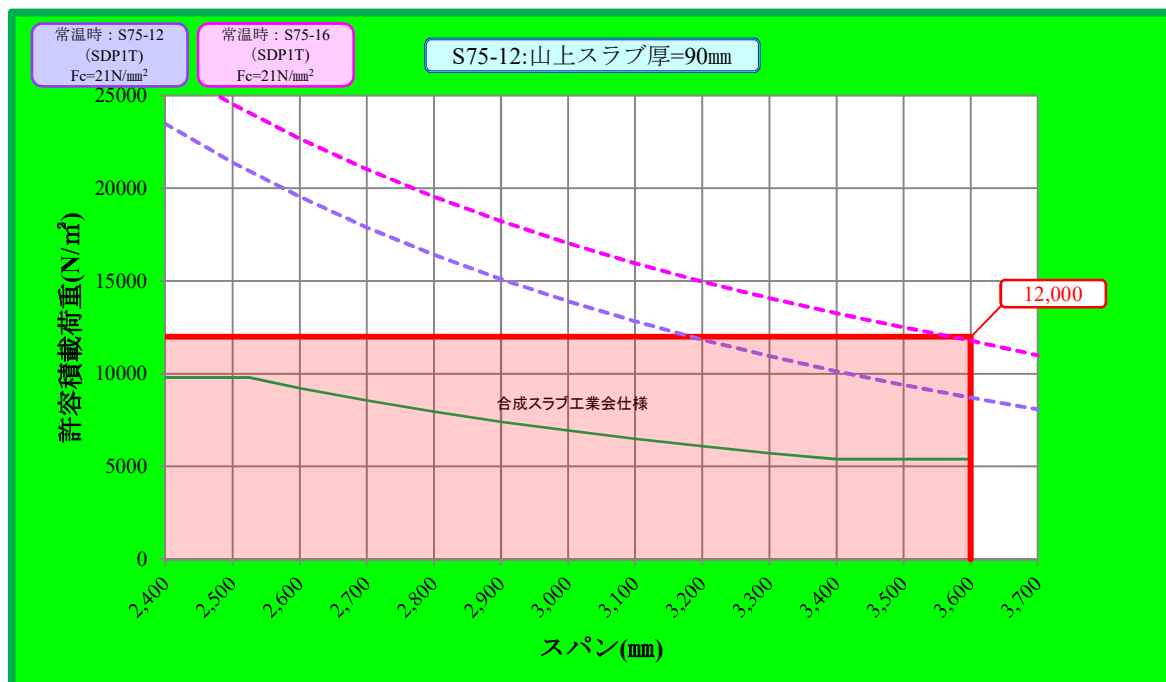
S75-12,16 SDP1T,SDP1TG,SDP2,SDP2G

普通コンクリート(呼び強度=21~45N/mm<sup>2</sup>)

溶接金網:φ6-100\*100

固定方法:頭付スタッド(中間梁上は焼抜き栓溶接可)

耐火補強筋:D13(各溝)



許容積載荷重表 (上段：耐火時, 下段：常温時)

デッキ種類		S75-12			S75-16		
山上スラブ厚 (mm)		90	95	100	90	95	100
認定自重 (DL)		3,150	3,270	3,390	3,190	3,310	3,430
スパン L (mm)	2,800	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720
		16,440	17,280	18,140	19,550	20,065	21,865
	2,900	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720
		15,115	15,895	16,685	18,225	19,265	20,380
	3,000	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720
		13,920	14,640	15,370	17,030	18,005	19,045
	3,100	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720
		12,840	13,505	14,185	15,950	16,860	17,835
	3,200	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720
		11,860	12,475	13,105	14,965	15,825	16,740
	3,300	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720
		10,970	11,540	12,125	14,075	14,880	15,740
3,400	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720	
	10,155	10,685	11,225	13,260	14,015	14,825	
3,500	12,000	11,880	11,760	11,960	11,840	11,720	
	9,405	9,900	10,405	12,510	13,225	13,990	
3,600	12,000	11,880	11,760	11,960	1,840	11,720	
	8,720	9,185	9,655	11,825	12,460	13,110	

※常温時許容積載荷重の算定条件：SDP1T, Fc=21N/mm<sup>2</sup>

(単位：N/m<sup>2</sup>)

※呼び強度=設計基準強度 (Fc) + 構造体強度補正值

株式会社 アイ・テック